

07 お客様、沿線にお住いの皆様とともに

1 阪急電鉄からのお願い

01 車内でトラブルが発生した場合

万が一、車内でトラブルが発生した場合には、お客様の安全を確保するため、非常用設備をお客様ご自身で取り扱っていただくことがあります。

非常通話装置・非常通報装置

全ての車両に非常通話(通報)装置を設置しています。非常通話装置はボタンを押下すると、乗務員と通話することができます。非常事態が発生した際には、乗務員に状況をお伝えいただけますようお願いいたします。非常通話装置等の位置につきましては、平素よりご確認ください。



※なお、通話機能のあるものと、通話機能の無い非常通報装置があります。

非常用ドアコック

緊急時に車内から脱出するための設備として、非常用ドアコックを設置しています。ドアコックを引くと、ドアを手で開くことができます。

《取扱の注意》

走行中は操作しないで下さい。みだりに車外へ出ると危険ですので、係員の指示に従ってください。



消火器

全ての車両に消火器を配備しています。非常の際にはご使用ください。



02 ホームで緊急事態が発生した場合

可動式ホーム柵非常用ボタン

非常用ボタンを押下すると、可動式ホーム柵を手で開けることができます。万が一、お客様が可動式ホーム柵と車両の間に挟まれるなどの状況となった場合、ご使用ください。



列車非常停止ボタン

お客様が軌道内に転落されるなど、緊急の場合にはボタンを押してください。



03 踏切道で緊急事態が発生した場合

踏切非常通報装置

遮断した踏切に通行の方や自動車等が取り残されるなど、緊急の場合にはボタンを押してください。



2 事故を防止するための安全啓発活動

01 沿線の小学校における安全啓発活動

沿線の小学校を訪問して、踏切の仕組みや正しい渡り方、ホームで電車を待っている時の注意点、車内でのマナー等に関する安全啓発活動を実施しています。



02 踏切事故防止キャンペーン

ドライバーや歩行者に対して安全確認の協力を呼びかけて啓発グッズをお渡しするなど、直前横断、無謀通行、運転操作の誤り等に起因する踏切事故の防止に取り組んでいます。



3 異常時の情報発信

01 情報発信体制の強化

- ホームページのアクセス容量を増強して、異常時にはいつでも安定した情報提供ができるように努めています。
- 阪急沿線アプリでも運行情報を発信しています。

02 発信する情報のタイミングと内容

現在の運行情報だけでなく、運転再開見込みがイメージしやすいように運行の見込み情報などをタイムリーに発信しています。自然災害発生時、計画運休を含む情報配信を実施します。

運転見合わせまで

- 運転本数間引き（走行している種別を明確にして配信）と運転見合わせ予告、運転見合わせ区間拡大予告（雨量による規制時）などを配信します。
- 台風到来時には、2日前頃から運転見合わせの可能性などの情報を配信します。

運転見合わせ中

- 運転再開の目途が立たない旨、運休中の対応内容（試運転列車で点検中、運転再開見込み時間）、翌日の運行予定（平常通り運転、翌日も影響が出る可能性）などを配信します。

03 異常時における訪日外国人への情報発信

携帯情報端末の活用による多言語対応などの取組を推進しています。
各運行情報配信手段の多言語化を実施しました。

日・英・中・韓	ホームページ、公式X、駅自動放送、お客様ご案内ディスプレイ、車内自動放送、車内案内表示器
日・英	行先表示器のテロップ

- 車掌の携帯情報端末に搭載したアプリ（AmiVoice）を活用して、車内放送による運行情報のご案内（運転見合わせ時）を、多言語（日・英・中・韓）で行っています。
- 2020年3月より、通常時ならびにダイヤ乱れ時における、多言語（日・英・中・韓）での運行情報のご案内が可能な多言語放送装置の導入を開始し、順次、車両への設置工事を進めています。
- 2020年度より、輸送障害が発生した際に、車内の案内表示器を用いて、運行情報の配信を開始しました。

多言語放送装置の操作器（運転室内）



輸送障害時等における車内案内表示の例

